明治廿九年十二月二日印刷
明治廿九年十二月四日發行

婦人衛生雜誌

第八十五號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生雜誌
第八拾五號
目次

講演

◉赤痢病豫防に就て　醫學博士　緒方正規君演說

衛生叢談

◉赤痢病患者統計◉赤痢蔓延の摸樣◉赤痢及虎列刺は空氣より傳染せず◉赤痢病箇人的豫防法◉赤痢患者臨檢手續◉體格を偉大ならしむる一新法◉遺傳病豫防法◉衛生十ヶ條◉天然痘豫防に關する訓令◉東京市醫職務章程◉黑死病豫防の告示◉臺灣の黑死病尙殄滅せず◉廣尾病院◉客數と温泉の比較◉本邦人の体格◉日本全國の戸數及人口◉緒方山極兩博士のペスト研究◉全國產婆數◉血淸療法の成績◉臺灣のマラリヤ熱◉老婦再天然痘に罹る◉大日本婦人衛生會例會◉廣告數件

大日本婦人衛生雜誌
第八拾四號
目次

講演

◉小兒衛生に關する歴史　醫學士　三島通良君

衛生叢談

◉赤痢の慘狀

◉釜山港及福岡縣の天然痘

◉コレラに對しての告示

◉虎列刺新患者

◉寄送雜誌

◉大日本婦人衛生會記事

◉廣告數件

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌第八拾五號

（明治廿九年十二月四日發行）

講演

●赤痢病豫防に就て

醫學博士　緒方正規君演説

私は總裁殿下會長閣下並に貴婦人の前に於て右演題に就き述べまするは誠に光榮と存じます

扨私の今日御話を申上げやうと思ひまする事柄は赤痢病豫防のことでございます、只今三嶋君の御話になりました兒童の衛生上歴史に付ての御話は、誠に貴婦人にも御滿足ならんと思ひますが、私の御話申すことは、往々或は不潔なことにも立至りますので豫め御斷りを申上げて置きます

我國は北、北海道より南は新領地なる台灣に至り温帶と熱帶と二帶に跨れる細長い國柄であり何處の地として人の住居し能わざるの氣候を有せる部なく陸には人の飲食物として須臾も缺く可からざる食物を生し即ち動物に於ても植物に於ても能く繁殖し海に於ても殆んど無盡藏と申すべき魚貝類あッて我人の食物の不足に毫も懸念を要せざる程の國でありまして、如是善い國柄は殆んど外の諸國に比が無い位幸福な國柄であります、併し又一方に於ては、動物と植物の最下等に位せるところの傳染病、病毒の繁殖も、不幸にして外の諸國に讓らざるのみならず、近年迄は我國にござりませぬところの傳染病即ち再歸熱病も我日本に這入り東京に於ても其外の府縣に於ても隨分流行し其外黑死病は幸にして内地には未た流行致さざ

るが新領地なる台灣に於て本年既に數十名の該病患者が出來ました、加之又橫濱に於ても或は長崎に於ても二三の黑死病患者を輸入致しました夫故に我國に於ては總ての傳染病にして只今迄知れて居りまする傳染病中、亞米利加にございます黃熱病を除きまする外は備はらざるなく誠に遺憾なことであります

我日本に於ては如何なる傳染病に罹る者が一番多いかと申しますると、六種傳染病の中に於て人が最も死亡致しますのは每年斷へず諸府縣に流行致し本年も盛んに流行致しつゝあるところの赤痢病で俗に痢病或は赤腹といふ疾病であります、其病氣は數年前迄は東京其外關東には格別流行せずして散在し往々少數なる患者あるに止まり之れに反して四國及九州には隨分甚だしく流行致したのであります、然るに近年になりまして中國關東の諸府縣にも右の病菌傳播し大坂兵庫愛知等の諸府縣に盛に流行するに至り去る明治二十六年の如きは全國に於ける赤痢患者の總數十六万七千に達し同年には大坂の一都府に於て二万四千五百名の患者あり其他兵庫、愛知、熊本、和歌山、大分、廣嶋等に於ても皆な各一縣に付て一万以上の患者がございました、又去る明治二十四年は福岡縣に二万五千余の赤痢患者を生し其死亡四千七百余ありたり、今茲に明治九年より昨廿八年迄の赤痢患者數を揭けまするに其總數は七十二萬二千九百九十六人にして略東京住民の半數に達します、又最近十年間即ち明治十八年より二十七年に至る十年間の赤痢患者數は六十一万九千八百十八人死亡が十五万〇四百六十六人であります、それ故に明治九

年より十八年迄は烈しき流行無く十八年以來は毎年〳〵多數の患者を生ずるに至れり、本年も亦不幸にして多數の赤痢患者が諸府縣に出來ました、殊に岐阜、島根、群馬、長野、廣嶋等に於ては甚だしく流行し就中群馬縣の如きは最も流行猖獗を極はめ殊に群馬縣吾妻郡には甚だしく流行猖獗を極めたり而して此郡の人口は四万二千八百十八人なるに本年初發より九月十六日迄に其一郡に於て三千八百三十五人の患者を生し六百四十三名の死亡あり因て人口に對して其中殆んど九人罹る割になッて居ります、草津村（有名なる温泉あり）人口三千三百八十三人にして八百八人の患者あり人口百人に對し二十四人罹れる割合なり實に心を冷かにする慘狀を極めて居ります

私は去る明治二十四年五年に二回大分、福岡、熊本へ赤痢病の研究に參り本年も亦群馬縣へ赤痢病の研究に參りました是より該病流行の摸樣幷に傳染の摸樣に就て御話を致さうと存じます

赤痢病の病毒は即ち其患者の消化器殊に大腸と申す所に宿ッて居りまして其部分には病理的の變化を起して參るのであります所謂醫者で申しまする大腸加答兒と其病名を申します、それ故に腹部に酷く痛みを起し或は下痢を伴ッて參ります、其病毒は患者の排泄物と共に体外に出るは學者は疑がはない所であります、即ち患者の排泄物に赤痢の病毒を含有す併ながら其傳染致しますところの道筋はどう云ふ工合に傳染するかと云ふことを知りませぬければ豫防を十分致すことが出來ませぬ即ち其傳染の道行と傳染の媒介物と云ふものを能く知りませぬければ豫防が出來ませぬ、夫等に付

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

て研究を致さなければならぬ其傳染致しまする道には種々な道があります、一は病毒が空氣中に混じて吾々の呼吸致しまする空氣と一緒に呼吸器なる肺臟に這入る即ち空氣の媒介に依て呼吸器から這入るかどうか、第二には飮食物に混じて其病毒が消化器の中に這入るかどうであるか、第三には怪我を致して其怪我から我々の体内に病毒が這入るかどうかと云ふことの研究をしなければならぬ、それで呼吸器の入口は鼻孔であります、其鼻の入口はどうであるかと云へば、其門は常に開け離し門番も何も無い、病毒が自由自在に這入り得べく少しも遮ぎる所あらず併ながら幸にして呼吸器から這入る病毒は少くないものであります、肺勞の病毒、或は曩に三嶋君から御話になッた天然痘の病毒の如きは、尙は空氣に混じて呼吸器より這入る病氣であります、それに反して消化器から這入ります病毒は多いのであります、消化器の一番初めの門は口でありますが矢張口にも門番もあらざれば病毒が若し食物に混じて入る時に當り中々一々に其病毒を見わけて、之は入れぬ之は入れると云ふことは素より出來ざるは總ての傳染病の病毒は極く細かなものであります、例へば虎列剌の病毒なれば一本の髮の毛を切ッて其切口に二百七十幾ッ縱に並ぶ位小さなものでありますから、迚もそれを一々見分けて消化器の內に通すと云ふことは出來ませぬ、粟粒大なる病毒の塊なるも何百万か何千万か數ふることの出來ない程の多數であります併ながら左樣に小さいものでありましても其發育は速かなるものにして一個から一晝夜に數百万の子孫を生し得る位であります、總ての傳染病

の病毒は強い消毒藥に逢ひ或は液体なるときは一度沸騰させますと皆な一二分時間に死絶へて仕舞ふのであります、それで死絶へましたものは飲食物と共に消化器に這入ッても格別害を爲さず故に消化器より其生活せる病毒を入れませぬ爲めには一度煮沸させるのであります、此傳染病流行時に飲料水其外の飲食物の一度煮沸致すは是に基いて居るのであります

流行學上に於きましては赤痢の病毒は余程他のものと違ひまして所がござります、虎列剌病は人家の稠密な所殊に不潔な場所に一番多く流行し山の中及ひ高山の村落に流行することは稀でござります併なから赤痢病は左樣ではござりませぬ、屢々高山山間の村落にも烈しく流行致します、即ち大分縣の日田郡と云ふ郡がありますが、それが餘程高い山の所に位置を占めて居る郡でありますが、此高い場所に於ても酷く流行致したと云ふ例もござります、其處に前津江と云ふ村がござります、其村は小さい村で僅か十三戸ありて其村に一名の赤痢患者死亡せり然るに田舍の習慣として死亡者あれば其家に皆な集ッて會葬し又食事等を致しまするが該村のもの二十名會葬し其家にて飲食せしに其後二日を經て其小さい村に二十三人の赤痢患者を發生し其中二十名は彼の赤痢死亡者の家にて會食せるものなりき只婦人にして其家に來り色々と家事を助けたるものが罹らざりし然れとも其婦人は自宅に用事がありて彼の家にては食事をなさゞりしと故に彼の家に會葬せざるもの丶發病者は僅かに三人に止まれり此例に據り考ふるに此赤痢病の病毒は飲食物に附着して其飲食物の媒介に依て

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

傳染したるものゝ如し又赤痢病は特發するものに非す是迄餘り調査せる處に據るに病毒を流行地より傳播せざる處に特發すると云ふことは無い樣に思はれます、而して一村に流行するや其始めの患者は該病流行地に行き發病して歸へるか或は歸ッて直に發病す一人患者あれば其患者の看護する者屢々罹り其次に罹るものは家族にして遂に近隣に傳播す又屢々遠方なる親類の者患者の家に來り其家にて飲食をなし其病氣に罹ると云ふ事柄が多いのであります、又病毒傳播の模樣に至りては極めて交通の少ない山間の村落或は又海を隔てたる嶋などに於て研究致せば能く分ります、交通の盛なる所は誰が病毒を輸入せるや又如何して流行始まるや調査すると誠に難いことであります、福岡に於て調査せるに同縣に小さい嶋あり、一をアイノ嶋二をヲロノ嶋と云ふ而してアイノ嶋は陸地を隔つること海上四里、戸數漸く五十五なるに明治二十五年迄は其嶋に赤痢流行せさりしが當年の七月に其嶋に於ける一名の者が赤痢の流行地に行き歸嶋して發病せるの後其嶋に大流行を來たし遂に其嶋のみにして六十名の赤痢患者あれり又たヲロノ嶋は陸地を隔つこと十四五里、戸數は二十人口百二十あるに其嶋民當時佐賀縣の赤痢流行地に行き赤痢に罹り歸嶋せるに其後其島に於ても亦大流行を來し遂に人口百二十名の島に於て八十名赤痢に罹り全島民の三分の二なる赤痢患者を發生せり故に是迄述べたる如く一名患者あれば續いて罹る者は其患者を看護するもの或は家族、親族にして遂に近隣に傳播するに至るは必竟するに看護する方法と消毒法を心得ざるを以て如是蔓延するならん

如何とあれは赤痢流行地を視察するも看護する者も消毒の何たるを知らず或は患者の排泄物を取扱たる其手にて直に飲食物を拵へ家族に飲食せしめるを以てなり若し斯の如くして赤痢が傳播せざれば却て不思議と思はれる位であります

赤痢病毒の媒介物として與て力あるものは蠅であります、田舍に於て赤痢患者の不潔物あれば蠅は其上に群集し又た蓋を有せざる器具にある飲食物にも亦蠅の眞ッ黑に群集せると赤飯に於ける小豆の及ぶ所に非ずして其食物の全面を蔽ひ殆んと其如何なる物なるやを知る可からさるに至る凡て傳染病毒は微細なるものにして蠅の足一本に病毒が何十万何百万程附着し得るものなれば田舍に赤痢が流行し其病毒を媒介するに蠅は與て力ありと考えられます、十分に消毒せざる排泄物等を下水に投じ其下水より井戸の水に入り之れを飲料に供すれば病毒に感染し或は田舍にて井戸なく只小川の水を飲料に供して其川上に於て不潔物を洗ひ其水よりも傳染することあるは論を待たないことであります、本年赤痢の猖獗を極めました群馬縣に於きましては、豫て赤十字社の支部にて看護婦を養成せるに其看護婦を赤痢流行の村落に派遣し該病看護の指圖をなさしめ或は避病院に其看護婦を雇ひたる等は誠に美擧にして豫防上には隨分効を奏することであらうと私は考へて居ります、又群馬縣にて右の看護婦にて不足せる分は東京の赤十字本部より雇ひ或は東京の看護婦會よりも雇ひ今迄少しも赤痢の流行せざる所にして其人民赤痢の豫防法を知らざる地に一通り傳染病の看護の法則を心得へました者が參りて其指圖を致すと云

ふことは誠に善い事柄であると考へます赤痢の病源に付ては或は之を下等の植物に屬するバクテリヤと云ふ說と下等の動物に屬する源虫と云ふ說の二ツにして未だ一致せず私の研究するところに依りますると赤痢の病源は矢張バクテリヤであると考へますが、尙は其病源に於ける學術上の問題に就ては今日は精しく申しませぬ然れども其病毒は、患者から或る媒介物に依て健康者に侵入し其健康者の体內に於て發育して疾病を起すと云ふことは誰も疑はござりませぬ、素より數多の傳染病に其病源が無くして起るものはありませぬ、又其病毒に接するも各人皆な此病氣を起すに非ず例へば虎列剌の流行地に於て各人の便を調べますると其毒病あり爲めに酷い症狀を起せるあり或は其病毒あれども感せずと云ふ事柄は隨分證明されて居ります、赤痢病に於ても同じやうな場合があらうと思はれます、或人は其病毒に罹り易い性質を有し或人は罹りにくい性質を有す之を醫者の方で申しまする と素因と申します、其罹り惡い性質或は罹り易い性質を隨分人工的に變化させることが出來るのであります、故に人々は各自衛生の爲め且つ社會の爲め出來得るだけは健康を保護しなければならぬ、と申しまするものは各個人の疾病は其患者其者の不幸損失のみではなく社會の不幸損失になります、都府に於ても町村に於ても皆な同じことであります、例へば今都府に惡疫が流行致しますると其患者の職業を休むのみならず其都府の製造事業も商業も停止するに至る例へば大坂が虎列剌の流行地となります時にあの商業の盛んなところが其商業が全く止ッて其損失と

云ふものは隨分莫大なことにあッて參る獨逸の港のハンブルグに於て今より四年前虎列刺流行せるに其時に損害を受けたことは實に小少ではないと云ふ報告がありますが同地に於て虎列刺が流行せし爲めに旅客も來らず旅宿、料理屋等に於て僅か五ヶ月間の流行に三百七十万マルクの損失あり只今日本の金に致せば大凡貳百万圓位な金高となるそれと同時に船舶の出入も少なくなり製造事業も止まり爲めに下等なる勞働社會の人民が誠に困窮を致して其救助に七百万マルク即ち三百五十万の損失あり其他税關の調査に據るに輸出入の貨物の爲めに損を來たしたのが壹億四千萬圓ありと、それと同じことで小さい場所に於ても場所だけの損害を受けますのであります、例へば夏にありますと温泉場などに人が澤山參りますが、明治十九年伊香保に於ける狀態は實に甚しかッたのであります、と申しまするは十九年の夏にて其當時皆温泉に多數の人が往ッてたのでありますが其温泉場旅店の或る主人東京に參ッて濱町に一泊せるに其時濱町は酷く虎列刺病流行せり而して此者が伊香保に歸り虎列刺病を發せしに總ての浴客が蛛の子の散るが如く逃げて仕舞い伊香保は實に非常な困難を來たしたのであります、今年も矢張同じことで例へば草津の如きは每年多數の人が入浴に往かれるところでありますが赤痢が流行した爲めに少しも人が往かなかッた、幸にして伊香保の方は赤痢が流行致しませぬで繁盛せり又た村落に於て甚だしく流行する時は一家に五人も六人も患者がある、さうしますると一軒ばかりでなしに連ッて患者がござりますると、如何に豐作にして米が出來

て居ッてもそれを取入れることが出來ない、又人を雇わうとしても應する者が無い、見す〳〵出來た米を腐らして仕舞ふと云ふ狀態に立至るのであります、恰度水害に逢ッて田地を流したのと少しも變らないと云ふ事になッて參る、而して赤痢病は虎列剌と違ひ虎列剌は隨分劇烈にして發病すれば其人が一日の中に死亡するとか、快くなりまして四五日で全快すると云ふ工合でありますが、赤痢病は經過が長いのであッて短いのも二週間長いのは一ヶ月半もなやむと云ふ狀体であります、隨分虎列剌と比較して經過が長いので一層困難を致すのであります、それで其豫防を致しまするのには重もに二た通りであッて、一は其流行を成るべく少なくする方法と、二には各個人が自分で其病氣に罹るべき素因を成るべく除かなければならぬと云ふ此二通りであります、第一の目的には流行地の場所を能く檢査して病毒のある所には十分消毒法を行ッて其病毒を殺して仕舞ふと云ふ方法でなければならぬ、若し一家皆な其病氣に罹ると云ふことでありますれば、其人を立退して仕舞ッてさうして其家も十分消毒を致し病毒がなくなッたら再び其家に歸ると云ふ工合にしなければならぬ、又其家にはそれに數日間日光を通して其外病毒の有ると思はれる所には十分消毒法を行ふ、例へば格魯兒石灰或は生石灰石炭酸等で十分病毒を殺し其病毒を成るべく散さない樣にしなければならない、如是流行致す時分には赤痢の病毒は人の交通に依て廣がるものでありますから御祭などには成るべく止めなければならぬ、是御祭などには飮食物も變つて屢々腸加答兒を起して却て病毒

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に罹り易くなりまするを以て各人の注意は第一に消化器を害しない様に致さなければならぬ、又食物は消化の良い物を用ゐて成るべく腸の內部の粘膜などを酷く刺擊致す物を用ゐないやうにしなければならぬ、例へは菓物にしても熟さないものであると其爲めに腸加答兒を起すと云ふやうなことがありますからそれらに能く注意を致さなければならぬ、それから曩に申上げた通り飲料水も一度沸騰しまするど病毒が皆な死にます、死にましたものは害がありませぬから差支へない又腸の加答兒にでもなりますれば早く醫師に見せて治療するを良とす、赤痢も只今迄は隨分死亡數が多い一般に申しまするど百人に付て二十人內外は死亡致して居りますが、併し之は畢竟田舍などに於て病氣に罹ッても成るべくは醫者に掛るよりも先づ賣藥に委ねて、重症に陷り初めて醫師に賴んで參りますから其爲めに餘程死亡數が多い、即ち惡るくして醫者に掛ると云ふ工合である、其證據には曾て熊本に於て赤痢流行せし時に其兵營に於ても嚴重に僅かに赤痢の疑のある者は皆な入院せしめ治療を加へられたるに時に患者七十人ありしも一人も死亡した者はあらざりし故に初發に治療致せば今日迄の如く多數の死亡を生ずるやうなことは無いであらうと考へます、

今日此御話を致しまするのは、實は東京にも御承知の通り赤痢が一日に數十名あり又本會の會員にして隨分地方に居られる人もあらうと考へまして格別新らしいことでもござりませぬが是迄私の見聞したところを一寸御話を申上げましたのであります

衛生叢談

◎赤痢病患者統計

赤痢病は明治九年以來年々に蔓延をなし今や九州地方より進んで其害毒を全土に流がすに至りたり人々の赤痢病を見ること虎列剌の如くならすと云へども其社會を害することと勝るも劣ることなし今明治九年以降の統計を擧ぐれば左の如し

明治九年	赤痢患者	九百七十六人
仝十年	仝	三百四十九人
仝十一年	仝	一千〇九十八人
仝十二年	仝	八千百六十四人
仝十三年	仝	五千〇四十七人
仝十四年	仝	七千〇〇一人
仝十五年	仝	四千三百三十人
仝十六年	仝	二千百七十二人
仝十七年	仝	二万二千五百廿四人
仝十八年	仝	四万七千百八十三人
仝十九年	仝	二万四千三百廿六人
仝二十年	仝	一万六千百四十九人
仝廿一年	仝	二万六千八百十五人
仝廿二年	仝	二万二千八百七十三人
仝廿三年	仝	四万二千六百卅三人
仝廿四年	仝	四万六千三百五十八人
仝廿五年	仝	七万〇八百四十二人
仝廿六年	仝	十六万五千三百〇五人
仝廿七年	仝	十五万五千百四十人
仝廿八年	仝	五万二千七百十一人

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

年々歳々の流行夫れ斯の如く明治九年以降年一年に増加し十七年に至りては二万以上に達し廿五廿六廿七年の三年間は其尤も甚だしき大多數にして其廿八年に至り極めて比較上僅少なりし所以は恐らくは虎列剌に對し上下一般に注意したる結果ならんか今此二十年間の赤痢患者総數は七十二万三千九百九十六人にして之を平均すれば一ヶ年の患者は三万六千百九十九人强に當り一年として流行せさる時なし虎列剌は明治十年頭には一万三千以上に達し十二年の如きは十六万八十九年には十五万以上の患者を出せるも其間の年には至て僅かの患者にして赤痢の如く次第〳〵に増加せることとなしこれ全く病毒の性質に差違ある所以にして恐るべき所以なり

◉赤痢病蔓延の摸様

赤痢病は斯く澤山の患者を出せるが如何にして蔓延するやと云ふに其病毒の元は動物性なりと云ふものもあれば又植物性なりと唱ふるものありて西洋の學者にも種々議論のあることとなるがソレはさて置き兎に角其病毒は極く小さなるものにして生活せるものにして人の胎内に蕃殖するものなることは明かなり其蔓延の調ふるときはイツモ御定まりの樣に水より傳播するものにして今年前橋に於て發したるものはよき一例なり初め前橋の曲輪町と云ふ所に發したるものにして（但し他所より轉居し來りたるものにて同町の長屋を借り住ひたりと）偶々小兒は下痢を催せり然れども赤痢なることを知るよしもなければ椽先より放尿せしめ灰などかけ置けるが其椽先より二三間離れて一の井戸ありて長屋中にて飲用せるが暫らくして雨降りけ

れば其大小便は遂に井戸端に流れ來りて遂に病毒は此井水中に入りてこれを飲用せる三十餘戸の人民は一時に感染するに至りしといふ又長野縣沓掛といふ田舍に流行せることと是なり其原因は上州草津より赤痢患者の東京に歸らんとせしに途中の温泉宿にて死亡せしが續いて其家の婆々に移りたるも其家にては赤痢あることを知らざりしかば其大小便等を川にて洗濯したりそも〳〵此川は沓掛村にては井戸なき爲め皆飲料水となしつゝありしが何にがさて水流にて病毒を洗ひしこととて僅か三日許の中に四十餘人の患者を出すに至りたりと是も又水より傳播したりしなり殊に田舍にては人死すれば多人數集り其家に飲食する風習あるが爲め尙更に患者は益々增加するの媒介をなすに至る又患者の大便などを仕末したる手爪などは石炭酸にてよく消毒せざる場合にはこれか爲め傳染することと往々あり

又患者の衣服其他患者の使用せる器物等よりするあり或は蠅の爲に病毒を蔓延せしむるに至るあり

◎赤痢及虎列刺は空氣より傳染せず

赤痢病の害毒蔓延傳播は斯の如く種々の媒介によりて傳染すれども假令ひ病人の呼吸をドノ位ひ嗅ひたりとて呼吸によりて傳染するものにあらず虎列刺の如きも空氣より傳染することなし其傳染する本は只一つ即はち肛門より糞便を排泄す此糞便の他所に附着して直接に体中に入るゝときは即ち感染するも其糞便は乾きたる際塵埃となりて飛ふときには其病毒は最早生活力を失ひ居る時なれは決して懸念するなし故に大便さへよく石炭酸若し

くは石灰類なりにてよく消毒さへすれば安心なるものなれどもさて此消毒は充分自身にては完全に行かぬものにして不完全勝なれば自宅療養は到底充分なる筈には行かさるなり此場合には避病院に移すを緊要とす然る時は又多くの患者を出すことなきに至らん兎に角に流行する地方は勿論流行せさる地方と雖とも猥りに生ま物及水などは夢め〳〵飲用することなく必ず煮立てたるものを用ゐる樣心懸るを緊要なりとす

◉赤痢病箇人的豫防法

嘗て緒方博士には個人的赤痢豫防法を說かれたり

一　赤痢病は最も傳染し易き甚だ危險なる疾病たることを知り各自衛心を盛んにし下痢患者あるときは速かに醫士に治を乞ひ淸潔、消毒、隔離法等凡て其指揮を受け勵行すべし

●二　看護人は患者排泄物の消毒に注意すべきは勿論特に病毒に感染せざる樣注意すべし

●三　自宅療養の患者は必ず蚊張の中に入れ以て蠅蚊等の排泄物に集まり病毒を傳播せしめざる樣注意し又飲食物は蓋を爲し蠅蚊等を防ぐべし

●四　赤痢患者ハ成るべく見舞はず又見舞を斷わるべし縱し見舞に行くとも其家にては一切飲食せず又飲食物を出すべからず

●五　赤痢病流行地にては一切飲食すべからず巳むを無くんば煮沸後未だ時を經ざる者を飲食すべし

●六　赤痢患者の入りたる便所には假令消毒を行ひたる後と雖も五日以内に行くべからず

●七　赤痢病流行の時は群集の場所に行くべからず會葬の如きも成るべく避くべし

●八　右の外は衛生官吏醫士等の指揮に從ひ萬事之

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を勵行するを要す
尙は某氏の說に依れば赤痢の初期は最初腹痛を起し下痢を催すこと度々にして甚しきは一夜間四五十度以上に及ぶことあり去れど其割合には便通無く且數度の重なるに隨ひ黃泡樣の排泄物あり尋で此排泄物に血を交へ同時に熱を生ずるものあれば斯種し病氣に罹りし時は速かに醫士の診察を受け尙は患者の排泄物は出來得るだけ消毒し醫士衞生官吏の指揮を待つべし尙ほ赤痢の疑似症に罹りし時は直に鹽又は辛子湯にて腹部及要部を溫め同時に最も速かに醫士の來診を受くべしとなり

◉赤痢病患者臨檢手續

一　赤痢病患者(死者)あれば患家に臨みたる吏員は必要の人の外先づ交通を停止し然る後消毒等に着手すべし

二　患者は避病院若くは隔離病舍に收容せしむるの外家宅廣濶にして患者を容るべき別室あるか又は別棟の家屋ありて隔離法治療看護消毒等充分なりと認むる者又は醫師に於て死に瀕するものと認むる等は臨場吏員の認定により自宅療養をなさしむる事あるべし此場合は檢疫官又は郡長、警察署長其家宅に臨み適否を審査したる上許可すべし先着官吏自宅療養を許さんとする時は檢疫官又は郡長、署長へ急報すべし

三　患者死者の家族又は居合せたる病毒附着の恐れあるものは盥又は其他の器具に石炭酸水を容れ手足を洗滌し後に入浴せしむるか溫湯にて身体を洗滌せしめたる上更衣せしめ着替前の衣類は熱氣又は煮沸消毒を行ふべくこれを爲し能はざる場合には十二時間以上石炭酸水に浸漬し若し容器なく

んば充分石炭酸水を灌ぎたる上日光に晒すべし雨天等の時は火力乾燥をなすべし
其他衣類臥具敷物建具圍厠及糞便等の取扱患家の食器食品交通遮斷並に家人と看護人の心得其他發病誘因取調べ患家及其附近の消毒等に就き綿密に規定しあり

◎體格を偉大ならしむる一新法

醫學士三島通良君の說なりとて日本新聞の記する處を見るに至極興味あるを覺ゆ其奏効の如何は未だ實驗したるものにあらざれば正確なるものと斷言すべからざれども其法や簡便にして理義も亦明かにして近頃鮮新なる說なれば今茲に其全文を借りて轉載することゝなせり

本邦人の體格は、現今世界に存在する人種の中に於て某野蠻人種を除き、最も矮小なることは、前に予の屢々之れを公言したるところにして、又常に遺憾とするところなり。夫れ國民體格の大小は、國家の生存上、重要の關係あることは論辯を俟たず、玆に於てか其體格を偉大にし、其健康を增進するの方策は目下缺くべからざる急務なりと信ず。近年體育の論切りに興ると雖ども、多くは皮相の管見に止まり、未だ其趣旨目的を明にするに至らずして、漫りに之を論議する者、比々皆然り、蓋國民體育の如き重大なる問題は、深厚なる學識と、多年の經驗とによりて、始めて之を解するを得べし、世に體育(殊に國民體育)を論ぜんとする者は須らく之に留意し、先づ其原を探り、其因を明にし、以て此が救濟の方策を攻究する所なかる可らず。

予過日外國新聞を閱す、偶々佛國のドクトル、ス

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

プリンゲルの發明に係る、穀物エキスに就て論するものあり、之を讀むに、其理義明かにして、其方法極めて簡易なり、之を小兒に用ゆるに利ありて害なきは、予の信じて疑はざるところなり、殊に本邦の如き、穀物を常食とするの國に於ては、これを製するに當り、或種の穀に代ゆるに、「米及糠を以てするの便を得べし」。

然れども、玆に一の攻究すべき問題は、此穀物エキスの効力が彼の肉食を常とする歐洲に於て顯著なるが如く、本邦に於ても亦然るや否の疑問なれども、此等は數多の經驗を積むにあらざれば、素より明答するに躊躇せざるべからず。併しながら彼穀物エキスが何れの點に於ても有害なるべしとは、吾曹の信せざるところなれば、之を小兒に試用するに於て、毫も危險の虞なきは疑ふべからざるものゝ如し

該外國新聞には、此穀物エキスを小兒に飲用せしむるに就きて、其年齡と分量とを明記せず。予案するに、之を飲用せしめ得るは、少くとも生齒期(予の調査によれば本邦小兒の生齒期は平均生後七箇月)以後に於てせざるべからざるものなりと信ず、蓋し生齒期以前の小兒に於ては、澱粉質を消化すること能はざるものと認めざるべからざればなり。

其用量は、始めには一日三回該エキス一茶匙宛を與へて、能くこれを消化し得るや否を檢し、徐々に增量して用ゐるに於ては蓋し大過なかるべしと信ず。

此エキスは、予も未だこれを實驗したるものにあらざるを以てこれに向て正確なる說を述ること能

はず、希くは同好の君子幸にこれを實驗し果して發明者の言ふ如き効績を收むることを得ば、殊に本邦の如きは其國民の體育上、利益を享ると測るべからざるものあらん。該新聞の記するところ概ね左の如し。

　如何せば小兒の體格を偉大ならしむることを得べきか

人類は其營養法と養育法との如何により、其發育を増大し能ふべきものあるか、動物を飼養する者の經驗に徴すれば、其養育の方法によりては、必ずこれを偉大ならしむることを得べしと云ふ、果して然らば、何故に人類に於てはこれを行ふこと能はざるか、如何なる方法を以てせば、此問題を解答し能ふべきか、是れ第一の疑問ならん。

夫れ發育なるものは、極めて複雜なる現象にして、一言以て之を蔽ふこと能はずと雖ども、蓋し遺傳なるものは、此事項の上に、大關係を有するものなることは敢へてこれを論ずるを要せず、而して發育上必要なる時期は、小兒期にして、人の體軀の未だ全く其發育を終らざる間にあり。而して如何にせば、小兒の體軀を偉大ならしむることを得べきか、然り、彼をして偉大ならしめんには、其營養法の如何が、發育上著明の關係を有することも、亦疑ふべからざるなり。體軀の長大如何は、蓋し骨骼の大小に依る、而して骨の主成分は燐酸石灰にして、神經系の主成分も亦燐酸鹽類なることは何人も識る處なり、玆に於てか先つ燐酸鹽類の多少が、終始此等有機體の存在に就て、最も緊要なる物件なることを信せざるべからず。これに由りてこれを視れば、身體の構成に於て、最も多

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

量なるべき要素の燐酸鹽類を小兒の營養に使用するときは、其發育をして大ならしむべき力、との想像を生ずるに至る。佛國の研究家ドクトル、スプリングルは、此想像によりて實驗を積み、人類發育の障害を研究し、如何せば小兒をして偉大ならしむることを得るかの難問を解釋したり。

燐酸鹽類にして果して人身の發育を促がし得べしとせば其の最も簡單なるは、燐酸石灰を水に溶解して小兒に飲用せしむるにあれども、斯くの如く單純なる方法にては其の目的を達する能はず。如何んとなれば、從來の經驗に徵すれば、凡そ鑛性鹽類は(食鹽を除き)必らず先づ植物の媒介によりて、始めて人體に吸收せらるゝことは既に世人の識る所なればなり、これを細言すれば、植物は鹽類を土壤より吸收し、而して人類は此の植物を食し、容易にこれを同化し、乃ち消化して、而後其鹽類を、體の構成、若くは作用に應用するものなり。案ずるに。多數の穀物は常に多量の鑛性鹽類を含有す、而して之を熟煮するときは、該鹽類は始めて水中に溶解するを常とす。ドクトル、スプリングルは、爰に於て大麥、燕麥、裸麥、玉蜀黍、麩の五種より一の穀物越幾斯を製造したり、其製法は左の如し

上記五種の穀類各二肉汁匙(大食匙)宛を、水四リートル(凡二升二合)中に投じ、之を煮沸すること三時間にして、火より降し、其冷却するを待ちて、絹篩にて濾過し、其全量を一リートル(五合五勺餘)となす、若し一リートルに達せざるときは、煮沸したる水を混して、全量を一リートルとなす。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

斯の如くして得たる越幾斯は、黄色の流動体にして、其味も亦不快なるものにあらず、而して用法は、混ずるに其効力を障害せざる牛乳、火酒、レモン等を加味して用ゐるにあり。ドクトル、スプリンゲルは、之を用ゐて其豫想の成績を得べきや否を小兒に實驗するに先ち、動物試驗を行ひたるに其發育を助成せるの事實を、確認するを得たり、爰に於てスプリンゲルは、始めて之を小兒に試用したるに、復た少なからぬ好成績を得たり。之を約言すれば、其効力の及びたるもの、血液、筋肉及神經系に於て、最も大なりとす。然れども、就中大なる効顯を呈したるは、骨の發育なり、故に該越幾斯を稱して、骨の營養に於ける、特効藥とするも敢へて過言にあらざるべし。

果して然らば、小兒をして偉大の發育を遂げしむるは此穀物越幾斯を以て、唯一の材料と認むべきか、決して否らず、此特効藥をして、其功績を完からしめんとせば、必ずや身體の動作、體操を缺くべからざるなり（通良案するに、體操は六年以上の兒童に課すべきものなるにより、其未滿の小兒にありては、之に適當の運動をなさしむべし）若し夫れ此の體操を缺くに於ては吾人は反りて豫想の結果を得ること能はざるべし、奈何となれば、單に骨に營養を與ふるのみにして、之を運動せざるときは、其化骨作用を催進すること能はず蓋し骨の發育は、其末端に存在するところの軟骨の漸次化骨するに基くものなればなり、故に之を運動して其作用を催進するに非ざれば、小兒の骨骼は偉大となるに反して、縮小するを免れず、然れども彼の穀物越幾斯を使用せしめ、倘ほ秩序ある

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

體育(筋肉の運動を)施すとせば、此が卓効を奏するや論を俟たず、如何となれば、骨は之を運動するところの筋と同一系統の脈管に養はるが故に體育を行ふときは筋肉之によりて發育し、筋肉の强健となるときは、骨亦之に循ふ而して骨の末端に在るところの軟骨の化して骨となる作用は其筋骨の動作と、正比例して成就するものなるを以て終に其結果たるや、全身體格の長大を致すに至る之を再言すれば、穀物越幾斯は、發育を催進するに必要なる成分を、人身に與ふるものにして、秩序ある體操は、其構成に際して、彼の成分を緊要なる部位に須與し、而して小兒の體格をして偉大なる發育を遂げしむるものなり。

今や僅に斯の數種の穀物より、製し得べき單純なる越幾斯と、外氣の中に於ける、秩序ある體操との二方にして能く小兒を發育長大ならしむること普通の者に比して數センチメートルなることを得べしとせば、實に其人種をして、偉大ならしむること、決して難事にあらざるなり、若し夫れ斯の如くにして、數世を經なば、庶幾くは小事以て大功を収むるに至らん乎云々

衛生記者曰く此法たる極めて簡短にして理義も亦明なり我國にても角力取の肥肉長大なるは常に穀物エキスとも稱すへき粥を食ひ充分なる運動を取るが故なるべしされば此説も又徒に看過することなからんか

●遺傳病豫防會

米國紐育市にてバーナードと云へる女子は遺傳病豫防會を組織したる由なるが其目的は肺勞瘋癲及び暴飲の如き遺傳病を有する者とは相戒めて結婚

するを避け子孫に其煩累を遺さゞるべしと云ふにわりと今同會に加入せる男女は併せて二千名に達したるよしなるが先頃會員中の若き一女子は誓に背きて肺勞の遺傳ある男子と結婚せしとの事にて違約の罰として其女子の肖像を寸斷に裂きて壁に曝らせりとのことなるが此會にして果してよく永續するを得るや否や極めて難事のことゝ云ふべし
報知新聞に記載せるまゝ茲に掲ぐ

○衛生十ケ條

ベルン市のドクトルヨルデイは近頃衛生十ケ條を公にせり參考の爲め左に大日本衛生會雜誌より轉載す

第一條　晝夜清淨なる空氣は健康を造るの根基なり肺病豫防に於て亦同じ

第二條　運動は人の生命なり戸外の運動は其目的の在る所仕事にもせよ遊歩にもせよ体操にもせよ坐業者の惡空氣の中にありて健康を害するを恢復せしむる効あり

第三條　皮膚を清潔にし且ツ之を強からしむること譬へば夏冬を通じて冷水浴を行ひ又一周一回入浴（西洋の習慣は本邦の如く屢々澡浴せず）する如きは健康を進むるのみならず感冒を防ぐに妙なり

第五條　衣服は暖きに過ぐべからず又狹きに過ぐべからず（西洋婦人に此弊多し）專ら單一を尙び防衛の爲めにすべく奢侈の爲めにすべからず健康幸福の爲めにすべく流行の爲めにすべからず

第六條　住居をして健康に適せしむるには日當りの好き乾きたる廣き清潔なる明 なる心持

好き處を擇ばざるべからず料理屋に費すの時と金とを自家に費せよ然る時は各人皆幸福に暮すを得べく金錢の價値彼此千倍の相違あるべし

第七條　總てに向て清潔なれ空氣、食物、水、皮膚、下着、衣服、住居、便所、土地、習慣、德義、の總てを清潔にし之に加ふるに中庸の德を以てせはコレラ、チフス、天然痘、實布垤利亞、梅毒等總ての傳染病の最良なる豫防なり

第八條　規則正しき業務に服するは身体と精神とに向ての治療藥なり

第九條　適當なる休息は喧しき爛酔する飲食場に求むべからず夜は睡眠の爲め日曜は家族と心、保養及精神を高尙ならしむ（寺院の説教等に由り精神を進むるを云ふ）爲に用ゐよ

第十條　必用にして事業に富み而して清淨なる愉快を持つの生活を得んとするは衛生の大目的なり故に職業を勉勵し家に在ては善き父となり職業に於ては善き親方となり生國に向ては義務を盡すの住民とならんこと健康の身にあらされは能はさるなり（獨國健康雜誌二十四號）

◎天然痘豫防に關する訓令

久我東京府知事は昨日各郡市町村區長に對し府下痘瘡患者即今續發尙蔓延の狀あるを以て本月五日豫防の件及び告示候次第就ては此際種痘を行ふべき者は遺漏なき樣之を督勵し赤貧の者は特に施種痘の法を設け速に施行方取計ふべしと訓令したり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◉東京市醫職務章程

東京市にては嘗て區醫を廢して市醫を置くことに決定し居りしが右市醫の職務章程は過日久我知事より公示せり同章程に據れば市醫は各區に一名乃至二名を從き左の事項を擔任せしむるものなりといふ

一傳染病地方病の發生に注意し之を豫防救治すること

一飲料水の除害及下水塵芥場公設便所の清潔法を計ること

一種痘の普及を計り貧民の種痘を施行すること

一主治醫又は產婆の手を經さる貧民の死產を撿案し及死體を撿案すること

一恤救規則該當者の診斷及徵兵に關する貧民を診斷すること

一養育院乳母の撿定を行ふこと

◉黑死病豫防の告示

山田警視總監及久我東京府知事より過日左の告示をなしたり

先般來臺灣島臺北に於て「ペスト」病流行に付萬一其侵襲を被むる如きことありては容易ならさるを以て各自力めて家屋の內外を清潔に掃除し且屋內へは時々大氣を疏通せしむる等豫防法に注意し災害に罹らさる樣戒愼すへし

◉臺灣の黑死病尙殄滅せず

臺灣の黑死病は未た撲滅に至らす今日までにて患者百四名內死亡六十一名との電報去月二十四日臺北發にて同月二十八日其筋に達したる由

◉廣尾病院

東京府告示第八十五號に云ふ本府府立廣尾病院來

三十日より開院し傳染病患者を收容す但自費患者は明治二十三年五月東京府告示第三十四號の手續に依るべしと

◉客數と温泉の比較

衛生寶鑑の記する處を見るに各所温泉の温度及客數の比較あり以て温泉の良否をトするに足らんか伊豆十六湯に於ける浴客の總數三年間の平均概算によれは六萬四千百二十人ありしといふ一人一日二十五錢ッヽ一周間ッヽを費すとして此一ヶ年間に他國より此國に費す金高は實に十一萬二千二百餘圓に達すといふ伊豆の國天賦の財源も亦大なりといふべし

浴場	郡名	華氏度	三ヶ年客數平均
吉奈	君澤郡	百〇五度	四千人
修善寺	同	百四十度	一万人
熱海	加茂	二百廿六度	三万四千人
古奈	君澤郡	百三十度	二百二百人
鑛湯	田方郡	百二十二度	三百人
畠湯	同	九十八度	八百五十人
船原	同	百五十六度	六百五十人
瀬古の瀧	同	百五十度	一千五百人
伊豆山	加茂郡	百四十四度	二千七百人
猪戸	同	百十八度	一千二百人
和田	同	百十三度	百二十人
湯河原	同	百二十四度	一千六百人
立岩	同	百四十度	一千三百人

合計浴客數六萬四千百二十人

◉本邦人の体格

明治生命保險株式會社にては被保人中年齡十五年より六十年に至る健康なる男子貳萬人の体格を調

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

査せしに其平均數は左の如しと云ふ

体長　五尺一寸八分七厘四毛
体量　十四貫四十二匁一分
胸の周圍　二尺七寸七分一厘九毛
胸廓縮張の差二寸一分三厘四毛
胸廓前後徑　六寸壹分七厘三毛
胸廓横徑　八寸二分九厘八毛
肺量　一升六合七勺二撮六
腹の周圍　二尺四寸四厘九毛
呼吸の數　一九、二七　（但一分時間）
脈搏の數　七三、九四　（同上）

◉日本全國の戸數及人口

昨廿八年十二月三十一日現在全國の戸數は七百九十三萬五千九百六十九戸にして人口は四千二百廿七萬六百二十八人ありといふ之を前年に比するに戸數に五萬千七百七戸人口に四十五萬七千四百五人を増加せり今之を類別すれば左の如しといふ（内務省調査）

華族　四千百六十二人
士族　二百五万百四十四人
平民　四千二十一萬六千三百十四人
生産數　百二十四萬六千四百二十七人
死亡數　八十五万二千四百二十二人
死産數　十一万七千二百十五人
結婚數　三十六万五千六百三十三人
離婚數　十一万〇八百三十八人
陸海軍在營者　九万七百五十九人
府縣より陸海軍へ入營者十万四千五百六十人
外國行　四万九千七百六十二人
除籍　七千四百四十四人

失踪者　二十九万九千二百三十二人

◉緒方山極兩博士のペスト研究

ペスト病研究のため今回臺灣へ出張を命ぜられたる醫科大學教授緒方、山極兩博士は愈々去一日出帆の郵船に搭じて渡臺の途に就きし由なるが先年青山北里兩博士が香港に於て研究されたるにペスト黴菌の性質を研究されしことあるが今回緒方山極の兩氏は黴菌發生の原因より蕃殖と撲滅の方法に就て深く探究する筈なりと

◉全國産婆數

日本全國に於ける産婆の總數は三万一千九百三十六人にして内本免許狀を有するものは僅かに千九百八十五人に過ぎず今試みに全國の出産數百二十四万六千四百二十七人を二十七年調に割り當るときは一人の産婆にて三十九人強を受け持つ割合となる若し本免狀を有する産婆のみを以てする時は一人にて六百二十八人強を受け持たざるを得ざる場合となるべし又た以て正則産婆の欠乏せるを知るに足らん東京市中に於ける産婆の數は總計一千百七十九人にして中本免狀を有するものは四百三十八人にして之を各區に細別すれば左の如し

區名	産婆數	本免狀	假免狀
麹町區	百四十八人	九十一人	四十九人
神田區	百六十七人	百〇一人	三十六人
日本橋區	百六十人	百十八人	四十二人
京橋區	百九十五人	百四十八人	四十七人
芝區	百四十七人	百三十八人	四十九人
麻布區	二十八人	十七人	十一人
赤坂區	二十八人	十四人	十四人
四谷區	三十四人	二十三人	十一人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

牛込區	四十五人	二十三人	二十三人
小石川區	四十七人	二十八人	十九人
本郷區	百十三人	八十一人	二十二人
下谷區	六十八人	四十五人	二十三人
淺草區	八十二人	四十四人	三十八人
本所區	八十六人	五十二人	三十一人
深川區	五十一人	十九人	三十二人

東京府下に於ける産婆數は左の如しといへとも産婆の割合に多く二千人以上あるは愛知、兵庫福岡の三縣とす之に次ぐを新潟廣島岐阜東京三重山口の順序なりといふ

● 血清療法の成績

實扶垤利亞血清療法の實施に依て得たる成蹟に付き當局者の調査に依れは過去明治十八年より十年間に於ける同病は患者百人に對し五十四人、五七の比例を以つて死者を出せしか血清療法の施行以來即はち本年一月より六月迄患者總數六百二十三名にて死者僅か二百三十名を出せしに過ぎざる良成蹟を呈せりと云ふ

● 臺灣のマラリヤ熱

マラリヤ熱は土地に固着する恐るべき地方病なれども防ぎ方さへ適當なるときは防ぎ得らるゝものなり然るを氣候順正なる我國の習慣を其儘に持ち行き暑きときは水邊に納涼を試み日暮るゝも戸も締めずして寢ね飲む物の如きも猥りに生ま物を食ひ酒なども飲み過ごして寢冷へするごときは尤もマラリヤ熱を起すの最大源因なり昨去兵卒の割合に此病ひに罹るものの多きは勤務上夜間の哨兵巡回等もあり不完全なる兵營にも居らねはならず又土匪討伐の際には溪水を渡り若しくは露營するが如

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

き實に止むを得ざるなり加之晝間は九十度の暑氣に照され夜は七十度若しくは六十五度に下降せる氣候の劇變に逢ふことなれば兵に此病多きは當然の事なるも然らざる人々は自巳の衛生を重すじ常にフラチルのシャツ、フラチルの股引をはき寢る時は必らず窓を締めフラチルの寢衣を着し熱くとも我慢する如くなして休息するを要す故に先づ臺灣に入らんとするもの若しくは居るものは毛織の肌着即ちフラチルシャツ、フラチルズボン下毛のメリヤス等の用意緊要あり肌に直ちに着するものは必らずしも毛織製ならざれば用ゐざることゝなし決して生ま物を食はず煮立てゝ極く熱きものを我慢して用る樣に爲すときは必らずマラリヤは防ぎ得べしと經驗ある某大醫は語れりといふ

●老婦再天然痘に罹る

門司に天然痘發してより益々蔓延の原況ありて當府下にても諸々に散見することゝて目下各區共に種痘に餘念なき有樣あるが假令ひ一旦天然痘に罹りたるものも一定の時日を經過するときは安心あらぬことは諸姉の熟知せらるゝ處なるが麻布飯倉の越路某の老母は元と天然痘に罹り痘痕歷々たるにも拘はらず本年五十一歲にて又再ひ天然痘に罹りしといふ此際種痘の用意緊要あり

大日本婦人衛生會記事

十一月七日第一土曜日午後一時より麹町區內山下町華族會館に於て例會を開く來會者三十餘名醫學博士坪井次郎君には顯微鏡及骸骨等の實物を示して生理上解剖上に就て演説せられ次に理學博士

長井長義君には伯林府職工午餐場と云へる演題にて同府職工午餐の狀況を述べられ右終りて午后四時散會せり

廣告

特別廣告

會長仁禮壽賀子及ひ會員河村春子は以來終身會員となられたり

正誤

前號新潟市會人名表中會長杉本加納子副會長淺田みね子とあるは會長淺田みね子副會長杉本加納子の誤り

入會者

○事務所へ申込に依り
神田區駿河臺袋町十三番地　贊成員　增田知正君

○三浦敎子の紹介に依り
麹町區隼町十番地　坂井すみ子

○宮下咲子の紹介に依り
牛込區袋町八番地　飯田幸子

○松平芳子の紹介に依り
赤坂區氷川町二十六番地　早田純子

○事務所へ申込に依り
赤坂區赤坂田町三丁目十一番地　小林てる子

○渥美とみ子の紹介に依り
麹町區永田町一丁目三十番地　笠島索子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○濱尾作子の紹介に依り

京橋區南鍋町一丁目七番地　三島千代子

轉居

麴町上二番町三十五番地へ　有村千代子

麴町區一番町三十番地へ　金子家壽子

芝櫻川町十六番地原田松太郎方へ　西川ふみ子

牛込區市ヶ谷仲ノ町十八番地へ　村山つる子

芝愛宕町二丁目一番地へ　板垣きぬ子

麻布東町三十四番地へ　上村きよ子

小石川小日向臺町二丁目四十七番地へ　石堂みち子

四谷區寺町二番地へ　八代操子

日本橋區通り四丁目十一番地松屋方へ　牛山竹代子

豊多摩郡淀橋町三百二番地へ　秀島つね子

本郷區森川町四十七番地森川樓方　佐藤とめ子

赤坂區氷川町二十四番地へ　石河里子

神戸中山手通七丁目卅一番地へ　吉武輝枝子

廣島縣江田島海軍兵學校内第五號官舍へ　石田武子

伊豆國熱海町字野中佐藤陸軍少將別邸へ　竹内十喜子

赤坂氷川町三十五番地へ　相良濱子

麻布市兵衛町二丁目八十九番地へ　白川かす子

本郷區切通り坂町十四番地へ　荒川琴子

麴町區永田町三丁目十四番地へ　高橋清子

芝區榮町十三番地久松定護方へ　俊野いわ子

大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會規則

第一條 凡本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり

第二條 本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置く

第三條 本會の會員たらんと欲する者は身分の尊卑を問はず何人にても入會することを得

第四條 會員たらんと欲する者は族籍住所姓名を記し本會事務所へ申込める可し

但事務所は下谷區練塀町四十三番地に置く

第五條 本會々員を分て修身會員特別會員通常會員の三類とし共に會費金を納むる者とす

但終身會員は一時に金拾圓以上を納め特別會員は一年金二圓四拾錢以上を納め通常會員は同金壹圓二拾錢を納むる者とす尤も會員中書生及其他事故ある者は唯雜誌料として同六拾錢を納めしむ

第六條 男子にして本會の主義を賛成する者は之を賛成員とす尤も會費は本會員に同し

但本會に功勞ある者は役員の協議を以て終身賛成會員(無會費)とすると有る可し

第七條 本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉す推戴員は皇族の御息所等に之を申請するものとす

第八條 本會は左の役員を置く

會長一名　副會長一名　幹事七名　評議員二十名　書記若干名

第九條 會長副會長及幹事評議員は會員の投票を以て之を撰擧し書記は幹事の推撰により會長之を命ず

但書記は都合により會員外の婦人又は男子に托することあるべし

第十條 會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し又は其代理をなし幹事は會長の命を受けて會務を處理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命に從て諸記錄及雜務を掌る

但幹事の分課を設けて　第一會計　第二編輯出版　第三庶務とす

第十一條 會長の見込を以て右役員外に會員中より臨時に指名委員を置くことあるべし

第十二條 會長副會長及幹事評議員の任期は一年とす尤も再撰するも妨げなし

第十三條 會長副會長及幹事評議員は無給料とし書記は相當の報酬を給す

第十四條 本會の集會は七月八月を除くの外毎月一回として通常第一土曜日午後一時より之を開く

第十五條 毎會學識經驗ある者を聘し講義演說を囑し本會々員の演說と共に之を筆記して本會雜誌に掲載し毎月各一冊つゝ無代價にて之を會員に頒付するものとす

但し演說の間に談話を交ゆる事あるべし

第十六條 會員は家族の婦女子又は知己の婦人を本會々場に誘致して傍聽せしむることを得

第十七條 講義演說の際男子の傍聽を禁ず

但會員に緣故ある男子は此限にあらず

第十八條 本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす

但些少の金額は日々の費用支出の爲め事

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治二十一年二月二十八日內務省許可

務所に引出置を得
第十九條 會計の收支は總て會計課幹事の捺印を要す
第二十條 會員又は會員外より金圓若くは書籍物品等を寄贈あるときは本會より謝狀を送り且寄贈の品目及其人の姓名を本會雜誌に載せ報告するものとす
第廿一條 會費は郵便小爲替にて東京下谷郵便局へ向け振出しある可し
但不得止場合には郵便劵を代用するも妨けなし尤も一割增とす
第廿二條 入會員には會員證を附與すべきに付郵便にて申込の者は郵便劵二錢を添ふ可し
第廿三條 每年三月九月の總會に於て會計の收支庶務の概略幷に會員の增減等を報告す可し且規則改正の案あれば之を議定するものとす尤も議定は總て多數決とし可否半數なるときは會長之を決す
但至急規則の改正を要する事あるときは豫め會員に報して臨時に之を爲すとを得
第廿四條 三月の總會に於て役員の撰擧をなすものとす
第廿五條 規則の範圍內に於て役員の評議を以て會細則を設くることを得
第廿六條 各地方にて發起者十人以上ある者は支を設くることを得
但其規則は本會の規則に抵觸せざる樣起草し本會役員の認可を經へし
第廿七條 本會の集會場は時々報知する者とす
第廿八條 會費金は受領證を付與すべし尤も小爲替又は郵便劵にて納むる者は右受領證遞送費として郵劵二錢を添ふべし然らざれば受領證は送付せざるものとす

明治二十五年九月
東京下谷區練塀町四十三番地
私立 大日本婦人衛生會

明治廿九年十二月二日印刷
明治廿九年十二月四日發行
發行所 東京下谷區練塀町四十三番地 大日本私立婦人衛生會
編輯兼發行者 東京牛込區矢來町三番地 田中德三郎
印刷者 同 神田區小柳町十三番地 小高良造
印刷所 同 神田旅籠町貳丁目拾一番地 廣業館

明治廿六年四月四日遞信省認可第一金曜日發行（定價金拾錢）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN